

# 大阪・関西万博開催に向けた御意見

御所属 慶応義塾大学 医学部教授 御名前 宮田 裕章 様

## 1. 2025年の大阪・関西万博に何を期待しますか。

(是非すべきこと、また、するべきではないこと、後世に残すべきもの等)

- 日本人が集まって日本の話をすると、日本の産業振興、日本の将来といった、日本目線の話になってしまう。日本目線だけで語っても、世界には通用しない。日本目線を踏まえて、世界に向けて何を打ち出していくのかという視点が重要になる。大阪・関西万博では、ドバイ万博の「Connecting Minds (心をつなぐ)」というコンセプトの次の世界を打ち出すことができればよい。「心がつながった後」の社会について検討していくことができればよいだろう。
- 将来における持続性を検討しながら、新しい価値を作っていくことができればよい。SDGsは「いのち消さない」を目標にしたものであると考えている。SDGsのその先として「Sustainable Shared Values (SSVs, スライド参照)」を提案したい。SSVsではHealth and WellbeingsなどSDGsと同様のカテゴリ設定を行う方針が良いと思うが、“妊産婦死亡率の軽減”という途上国を軸にしたminimalな目標だけではなく、“魅力的な生き方が自然に健康につながる”、“病気や格差が、人生の障害とならない”などの新しい豊かさを検討する軸も必要になる。「いのち消さない」の先の「いのち輝く」を追求し、世界と対話をしていくのが日本が目指すべき一つの形なのではないか。「Sustainable Shared Values」はSDGsの次の平和と経済の行動規範になり得るものである。万博の期間中に、「いのち輝く」について皆で考え、一緒に作り、提言をしていくことができればよい。価値の共創によって、新しい社会を築く。「令和の先」を切り開くことができるだろう。
- 超高齢化、少子化、人口減少、、、日本は未来を標榜しなければ先がない国である。ただこの危機は近い将来アジアや欧州諸国にも到来するものであり、日本の状況をmirror of futureとして世界に位置づけることは説得力がある課題設定である。日本が国全体で2025年までにモデルケースを作りながら、世界の未来の一端を見せる、あるいは各国と共創してそれぞれの地域の未来を見いだすことは意義があると考えられる。そのような過程で築いたネットワークやコミュニティは大阪・関西万博のレガシーになるのではないか。
- これからは「価値共創社会」になると考えている。アラブ地域に象徴されるような石油資源社会から、データが中心の社会に移行しつつある。金融分野をはじめ、データでビジネスが大きく変化している。中国では、社会信用がデータを用いたスコアとして算出される社会になっている。そのスコアが子供の進学先にも影響するなど、貨幣に代わる新しい評価基軸が生まれつつある。これこそがポスト資本主義の一つの形だと考えている。
- データを企業(GAFAモデル)や国家(中国モデル)が独占するのではなく、共有分散させながら、新しい価値観を作っていくような取り組みが、G20の大阪トラックから始まっていくと考えられる。その時に日本として、どのような将来構想を描くかが重要である。G20(大阪トラック)から万博が開かれる2025年まで、データ管理のルールづくりに関するイニシアチブを日本が取ることができる。省庁間で上手く連携し、その間に開催される国際会議などをつなげながら、万博までの流れを作ることができれば、万博の場における新しいシステム作りやルールメイキングにつなげていけるのではないか。

- 今まで、データは所有財であるという感覚が強かったが、今後の社会の中では、共有財、公共財という側面でデータを考える必要がある。例として1名の患者のデータを1万人に加えることで、1人は実態に基づいたより高い価値の医療を受けることができるし、1万人もそれが10万、100万と増える中で全体としての価値を更に高めることができる。データの取扱いや考え方についての整理を進めるべきである。

## 2. 大阪・関西万博で見せるべきコンテンツは何でしょうか。

(例：最先端技術の実証、SDGs達成への貢献、ライフサイエンス分野との連携等)

- 世界各国が一堂に会することを利用し、万博の場で新しいルールを作ったり、来るたびに異なる体験ができる仕組みを整えることができればよいのではないかと。万博に対する来場者の関心はそれぞれ異なると考えられることから、様々な層に訴求することができる仕掛けづくりが重要である。
- 各国間のコーディネートを進めるのが重要になる。これまでの万博では資金に限界がある途上国を中心にホスト国がサポートすることが多かったが、規模の大きな国々とも共創を行うことも重要だろう。例として、中国は、他の国では不可能な、あらゆるプライバシー情報を取得し、信用スコアという一元的な価値軸を作り上げているが、その価値軸に日本の持つ多様な価値軸を組み合わせていくような取り組みをすることができれば面白いのではないかと考えている。異なる価値のぶつけ合いや、コラボレーションを日本が開催国として促していければよい。
- 参加国同士をコーディネートし、価値の共創を促すことによって、来場するたびに会場内が変化していくような仕組みを作ることができれば面白いだろう。開催までは日本と各国のコミュニケーションが中心にならざるを得ないが、開催した後は各国間でシナジーを作り出すような仕掛けが作れれば面白い。

## 3. 会場計画及びインフラ整備について、新たなアイデアや御意見をお願いします。

(例：会場のデザイン、水面や緑地の利活用、待ち時間のない万博とするための手法、災害対策、暑さ対策等)

- シリコンバレーでは見ることができない GAFA、中国が知らない中国を体験できる万博にすることができればよい。今までは、パビリオンの展示内容は各国に預けていたと思うが、開催国として各国と積極的にコミュニケーションをして一緒に展示を作ってほしい。
- 大阪の再開発プロジェクト「うめきた2期」は万博とコンセプトを連動させながら、万博の約一年前に開業する予定である。関西の様々なデータを使ったプロジェクトと連動しながら、今からデータを集め、万博開催時に集めたデータと合わせて利活用し、レガシーとして価値を高めて後世に残していくことができればよい。
- 万博は大きなチャンスである。世界の人々が日本を訪ねてくる。彼らが知らなかった日本の魅力に気付かせることができる。このチャンスをしっかり使っていただきたい。

## 4. そのほか、御自由に御意見をお願いします。